

冬にネズミ対策は重要



赤外線カメラ



カメラに映ったネズミ

12月になり、気温の低下と乾燥によって新型コロナウイルスだけでなく、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症が心配な時期となりました。

これらの感染症も心配ですが、ネズミにも注意を払う必要があります。ネズミも感染症の媒介生物であることに加え、痒みをもたらすイエダニの原因でもあります。さらに、ネズミは配線などを齧り、停電などの電気系統のトラブルや、最悪の場合火災をもたらすこともあります。

ネズミの被害は秋から冬にかけて多くなり、これには主に3つの理由があります。

1. イエネズミと称される屋内に定着しやすいクマネズミ、ドブネズミ、ハツカネズミは冬季は野外において餌となるものが減少する中、冬眠せずエサを探して動き回る。
2. 建物内はネズミの天敵がいないことや餌や水があり、暖かいことから、ネズミが好む場所である。
3. 冬季休業中は人の気配がしないという事もあり、ネズミが侵入、定着しやすくなる。

特に、よく問題となるクマネズミは上下移動が得意であり、高気密化した建物においても定着しやすく、警戒心が強いことから、防除することが難しいことから、絶対に定着をさせてはなりません。

ネズミの対策には、赤外線カメラの設置を行い、侵入・移動経路の特定をする

ことや侵入防止対策として、壊れた壁や配線の通し穴などは金属板やネズミが嫌がる成分を含有した防鼠パテで埋めることなどが挙げられます。また、侵入してきた個体を捕鼠シートの設置によって捕獲することや毒餌の設置によって殺鼠を行う方法もあります。

ネズミは原因を突き止め、複合的な対策を行わなければ効果が出にくく、調査や施工には専門家の知識が必要不可欠です。お困りの場合には、弊社の担当者にお気軽にお問い合わせください。



防鼠パテによるパイプの閉塞

今月の

豆知識

生き物の味の好みについて

今回は生き物の味覚に関するお話です。

人によって食べ物の味に対してそれぞれ好みがあると思います。また、同じ人でも食べ物の好みが変わり、今までとは異なる食べ物を好むことがあると思います。

このような食べものに対する好みの変化は人間特有のものではなく、他の動物においても見られます。

例えば、嫌われ者の代表格であるチャバネゴキブリは雑食性ですが、米ぬかか乾燥果実のどちらか一方をしばらく餌として与えた後、米ぬかと乾燥果実

を同時に与えたところ、今まで与えられてないほうの餌をよく摂食したという研究結果があります。

また、同じゴキブリの毒餌の使用を続けているとその場所にいるゴキブリがだんだん毒餌を食べなくなるといった現象が見られます。これには、その毒餌を好まない個体ばかりが生き残り、食べ物の好みは遺伝してその子孫に受け継がれているのではないかという説があります。

人間と同じ雑食性の生き物でも味の好みは個性があることは面白いと思います。



東洋産業株式会社

本社

岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL 086-241-8080・FAX 086-241-8094

拠点

大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島・高松・松山・金沢